

「修正型電気けいれん療法の開始」

～謎の果物箱から、安全・安心な医療の提供へ～

修正型電気けいれん療法 WG
A3 病棟 木村正樹

今年の7月から麻酔医の竹田医師を迎え修正型電気けいれん療法（以下 m-ECT）を開始することができました。開始前に、4人の看護師が新潟大学医歯学総合病院に見学に行き、小泉精神科部長を中心とした多職種 WG を作り準備にあたりました。物品の準備から手順、クリニカルパスをはじめとする書類の作成など短期間にまとめ、無事第1回目を実施した時はホッとしました。

m-ECT は、全身麻酔をかけ呼吸管理を行いながら筋弛緩剤を投与する事で、頭部に通電した際の全身けいれんが起きないようにして行う治療です。通電装置も従来のサイン波型からパルス波型の通電装置が使われ、心電図や脳波などのモニタリングをしながら実施し、健忘などの副作用も少ないと言われています。

以前の電気けいれん療法（以下 ECT）は効果のある一方で身体的侵襲もあり、必ずしも良いイメージではありませんでした。ある日、60代の女性患者さんから「電気かけないで下さいね」と声をかけられました。

突然、何を言っているのかと不思議に思いましたが、患者さんは看護室にあった、ある果物箱を見てECTを思い出したのです。

これからは、m-ECT に変わること、副作用等の不安が軽減し、安全・安心な治療として患者さんや家族に受け入れられていくと思います。

当院でクロザピン治療を開始してしばらく経った時の話ですが、以前から行きたかった旅行に行けた時の事を、うれしそうに患者さんが話をしていて聞いたことがあります。m-ECT は、すべての患者さんにとって有効というわけではありませんが、薬物療法だけでは、十分な治療効果の得られない患者さんにとっては有効な治療法になります。一人でも多くの患者さんや家族の思いが叶い、やりたい事ができ、自己実現につながると良いと思います。

余談ではありますが、今回 m-ECT 実施にあたり、WG に入っていなかった B1 病棟スタッフから他病棟に発信し一緒に実践演習を行いました。私が参加した時は、他病棟のスタッフも多く参加し、医師も顔を出し、あれこれ言いながら和やかな雰囲気の中で行っていました。

まだまだ、当院は改革の途中です。誰かがするだろうではなく、みんなでやっという姿勢・雰囲気が感じられた一幕でした。

